



認定 NPO 法人スペースふう

循環型社会を目指して!



活動報告書 2023



2012年より
リユース食器を導入！

「地ビールフェスト甲府」

仕掛人
村松 暁さん

Muramatsu Satoru

に、お話を伺いました！

甲府盆地の夏の風物詩「地ビールフェスト甲府」は、2012年より毎年甲府駅北口よっちゃばれ広場にて開催され、地ビールと地フードを堪能できるイベントです。第1回よりリユース食器を導入し、ごみ削減を実践してきた、仕掛け人のひとり、地麦酒祭甲府実行委員会（山日 YBS 事業局）の村松暁さんにリユース食器導入のコツやイベントの魅力について伺いました。

『イベントを楽しむ人たちが、自分たちで出すごみ処理費用を負担する』仕組みを考案

長池 第1回からリユース食器を導入されていますが、何かきっかけがあったのでしょうか？

村松 従来のイベントでは「ごみだらけ」は当たり前だったので、何とかそれを解消したいという思いはありました。たまたまスペースふうのことは知っていたので、ごみを出さない仕組みをスタートから考えていました。

長池 そこには何か課題はありましたか？

村松 赤字にならずにエコイベントを持続させるためにはどうしたらいいか考えました。リユース食器の利用料はもちろん増えますが、基本的に『イベントを楽しむ人たちが、自分たちで出すごみ処理費用を負担する』という仕組みを考案しました。具体的には、リユース食器代やそれに伴う諸経費はフード料金に含まれており、利用者に負担してもらう仕組みにしました。

長池 出店者さんにはどうやって理解してもらいましたか？

出店者さんの声

甲州地どり市場 加藤 健さん

リユース食器は、しっかりしていて
使いやすくていいですね。



村松 この仕組みでやりたいということを伝えて、当時のスペースふうの担当者さんにも何度も説明に通ってもらいました。出店者の中には戸惑う人もいたかもしれませんが、最終的には合意しました。

長池 リユース食器の仕組みを導入するためには、出店者さんの理解も大切ですね。

村松 そうですね、この仕組みをやることで、出店者さんのビジネスとしての姿勢が明るみに出てくるので、主催者側としてもとても助かっています。やっぱりいい加減なことはしなくなりますよね。

長池 なるほど！ そうなのですね。

村松 こういうルールでやっているからしっかりやってください、と出店者さんに伝えていきます。イベントのコンセプトがあってあの空間を成り立たせているので、その一環としてリユース食器を使うならば、そ



んなに抵抗はないと考えています。あとは、隠すことなく、「お金がないからごみ回収の費用が払えないし、バイトも雇えないからリユースという仕組みを導入します」と第1回に堂々と言いましたからね（笑）

長池 隠すことなく本音を伝えることは大事ですね（笑）

リユース食器の費用は
この仕組みの中から捻出することが継続のコツ

長池 ところで、リユース食器の導入をためらうイベント主催者さんの中には、費用が課題だと断念されるケースも少なくありません。そんな中で、10年近くこのリユースの仕組みを継続している秘訣を教えてください！

村松 計画段階で関係者の皆さんとも相談しました。実際、どのくらいごみが減るのかわからなかったのですが、使い捨て食器のごみは出ないけど、その他のごみ（残飯等）の処理やその他にかかる経費を予想した上で、リユース食器レンタル代を払えると判断し、実現しました。他からの予算は一切使わずに済みました。

長池 ええっ！ 他からの予算を使わずに済むのはすごいですね。

イベント情報

地ビールフェスト甲府

山梨の地ビールや地フードが大集合！

2023年7/28(金)～8/6(日)

会場 甲府駅北口アシストエンジニアリング
よっちゃばれ広場

リユース食器を体験しながら
地ビールも地フードも楽しんでください！

主催：地麦酒祭甲府実行委員会



村松 リユース食器を使ってごみを出さなければ、ごみ処理代が格段に安くなります。

長池 ところで、ごみは減りましたか？

村松 やってみたら予想以上にごみは出ませんでした。さらに残飯等のごみや細かい紙ごみもほとんどないし、ビンやカンとかはリサイクルで引き取ってくれますからね。

長池 最後になりますが、コロナ禍を経て、これから「地ビールフェスト甲府」について何を大切にしていきたいですか？

村松 立ち上げの頃からこのイベントの目的は、ビールを通して地元や地方を知るきっかけを作る事。山梨の中心であるべき地に人が集まり、



ここだけの話

元山日 YBS 事業局長 鈴木 精貴さん

出店者だけでなく、アルバイトさん、社員も含めて彼のリーダーシップで丸となる。彼への信頼は厚いですね。それが成功の秘訣だと思います。



リユース食器 導入のコツ&継続のコツ



リユース食器代等は
利用者負担の仕組みで！



イベントコンセプトの
一環として、リユース食器！



イベントはみんなで作る
ライブ感が大切！

大人の社交場になることでした。大人になるって、社会的に振る舞って、自分だけでなく社会のことも考えるようになることだと思うのですが、その要素の一つがリユース食器。その軸は変わりませんが、そしてコロナ禍を経て再確認できた事があります。家族や友人、たまたま隣に座った人でも、「密」に「接触」し「会話」や「飲食」をすることって、ものすごく楽しくて充実するんです。スマホやパソコン越しでは得られない、出会いや発見があるんですね。だから、ビール、フードの出店者、バンドメンバーも、バイトもお客さんもみんなで作るライブ感大切にしていきたいです。生がいいんです！

長池 やはり生がいいですね！ 貴重なお話をお聞かせくださりありがとうございました。これからごみを出さないイベントを企画する人々にたくさんのヒントを与えてくださったことと思います。また、スペースふうにとって、地ビールフェストにリユース食器を提供する機会を与えてくださったことに改めて感謝いたします。今年もよろしくお願います！



お客様の声

リユース食器は定着していると思います。
風で飛ばないし、丈夫！
おかげで安心して
イベントを
楽しめます！！





リユース食器レンタルの利用普及事業

2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により全国的にイベントが中止・自粛となる中、夏以降にリユース食器の利用が復活し始め、イベント 96 件、約 16 万個のリユース食器を全国に貸し出しました。また、リユースお弁当箱は、様々な場面で約 600 個使われ、使い捨て容器ごみの削減に貢献しました。



楽しくエコ!!

2023 年度より価格改定

「使い捨てからリユースへ！」—リユース食器レンタル事業の創設から 20 年。皆様には、この間、使い捨てプラスチックごみ削減に向け、ご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。スペースふうはこの間、リユース食器の普及を最優先に考え、レンタル価格を抑えることに努めてきました。しかし、昨今の社会・経済情勢の下、このままの原価では事業を持続させることは困難である、との結論に至りました。皆さま方には、価格の引き上げにご理解いただき、今後とも「プラスチックごみ削減」に向け、ご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



ヴァンフォーレ甲府 エコスタジアムプロジェクト

2022 シーズンでは、コロナ禍の影響を受けながらも、サポーターの入場者数も徐々に回復傾向が見受けられ、シーズンを通して約 29,000 個のリユース食器が利用されました。これは前年に比べ約 1.7 倍 (12,000 個) の増加となりましたが、コロナ禍前の 60,000 個には程遠い数字でした。また、ヴァンフォーレ甲府との連携を図りながら 2022 シーズンの新しい取り組みとして、デポジット制度を実施せず返却の動向を注視してきましたが、やはり返却率は 83% と低く翌シーズンの課題となりました。



余談ですが、10 月 16 日天皇杯決勝戦において J2 のヴァンフォーレ甲府が見事優勝を勝ち取ったことは、日本中の大きな話題となり、長年関わってきたスペースふうのメンバー一同も歓喜の声を上げました！

ご報告

長年、ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム時において、エコステーションの運営に携わり、リユース食器の回収やごみの分別回収を行ってきたスペースふうですが、段階的にその業務をヴァンフォーレ甲府直轄体制に移行してきました。そして、2023 年 4 月より当日の業務は全てヴァンフォーレ甲府が担うことになりました。もちろんリユース食器の提供や CO₂ 削減の情報等は今までどおり継続して行っています。



▲VF 甲府リユース食器担当の渡辺さんとともに

リユースお弁当箱で地域をつなぐ



リユース弁当箱が広げる 高齢者への「見守りの輪」

前年度より富士川町社会福祉協議会と連携しながら、高齢者向けに提供している宅配弁当を対象に、使い捨て容器からリユース弁当箱に切り替えました。リユース弁当箱は、高齢者の利用者様から「食欲がわく」「見た目がとてもいい」「ゴミ出しの負担が減った」など大変ご好評を頂き、2022 年度は約 3,500 個のリユース弁当箱をご利用頂きました。高齢者の皆様の嬉しい声を励みに、経営状況が大変厳しい中ではありましたが、スペースふうへの皆様の温かいご寄付を活用し、継続する事ができました。



リユースお弁当箱がつなぐ 地域デザイン事業 ~ホットス~



interview

ホットスのお弁当を利用してくださったママさんに、当時は振り返っていただきました

ホットスでは、富士川町にお住まいの産後のお母さんたち等に「ほっとするひととき」を感じていただくことを目的とし、2021 年秋よりお弁当のお届けを開始しました。これまで 50 人以上の産後のお母さんたちが利用しています。リユースお弁当箱によるお弁当が地域をめぐることによって、産後のお母さんたちと地域とをつなぐ、強い味方の子育て応援団として元気を届けています。



Q 産後にホットスのお弁当を利用してみていかがでしたか？

A 産後の時期は赤ちゃんのお世話だけでなく、上の子のお世話や家族のこと等が同時に起きるので自分のことはほんとに最下位になります。実は、ホットスのお弁当を食べながら涙した時もあるぐらい大変な時期もありました。自分のことがあともわしになってしまう不安定な時に、心のコもったホットスのお弁当が届くと「わたしのためにつくられたお弁当だ」って、あずま袋を開ける瞬間から自分の時間として心が整う機会にもなりました。とても嬉しかったです。

Q これから出産して産後を迎える後輩ママさんたちに向けて一言お願いします！

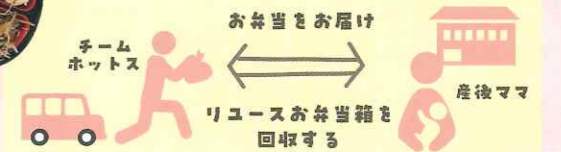
A 振り返ると産後すぐの 3 ヶ月は本当に大変だったので、ホットスを使うなら早い方がいいですね。産後は特に一生懸命やらなきゃ！となりがちなので、ぜひぜひ、少しの時間でいいので自分を甘やかしてあげてください。



インタビュー 仁平麻美さん(二児のママ)

子育て応援 × 環境

リユースお弁当箱はごみの削減だけでなく「人をつなぐ」きっかけづくりになります



Youtube 仲間たちのあれこれ配信中♪



富士川町児童センター子育て広場 千頭和 雄子保育士 「児童センターに遊びに来るママさんたちから「ホットスのお弁当、いいですよ〜」って話をよく聞きます。中には他のママに伝えてあげるママも！輪が広がっているんですね。」



UTY「スゴろく」やフジテレビ「フューチャーランナーズ」、Yahoo! ニュース等、産後ママさんやお弁当づくりを担当した Public House モモのみなさんとともにホットスの取り組みが紹介されました。

フジテレビ「フューチャーランナーズ」アーカイブ視聴できます♪



2023年2月22日放送



本事業は休眠預金等活用事業の助成を受けて実施しています。(2021-2023 年度)

>> Next hottos !

本事業を持続可能な取り組みにしていけるために、富士川町との協働に向け、富士川町長、関係課の皆様との話し合いが進んでいます。



History of Space Fuu since 2002

おかげさまでスペースふうは NPO 法人格を取得して20周年を迎えました!!

さまざまな問題乗り越え、この20周年を迎えられたのはなんと
言ってもみなさまのおかげです。どうかこれからも、山あり谷あり
のスペースふうを末長く見守ってくださいますようよろしくお願
いいたします。



十人の血判状(総意)を胸に、 いざ出陣!

2003年、理事長の永井寛子は十人衆を集めた。リユース食器レンタル構
想はできたものの、食器洗浄施設等の整備のため1,000万円という大金
が必要になり借金を負うことになるのだ。この現状を話したらこれまで
苦楽を共にしてきた十人衆から「離脱者」が出てもおかしくない。永井は
十人衆を前に静かに語り始めた。話しながらもこの仲間とこの新しい事業
を立ち上げたいという強い想いがこみ上げてくる。しかし、永井は振り
切るように、「今ここで離れてしまふ仲間がいるとしても、恨みつ
らみは一切なし、今まで本当にありがとう」と言い放った。頭を
抱えてうずくまってしまった人、ぼ〜と外に目を向けている人、夫に
相談しなければと言う人、、、重苦しい空気に包まれる中、結論は3日後
に持ち越されることとなった。そして迎えた当日、十人衆の全員が「一緒
にやります!!」この熱き血判状(総意)を胸に、「目指すは全国、いざ
出陣!」の物語が始まったのでございます。



早馬飛ばせ、 いざ東北へ



ある日の寒い夕暮れ時、事務所の電話が鳴り響いた。
「明日使用するリユース食器がまだ届いていないんですけ
ど、、、」「ええー?!」調べた結果、届いた荷物先は注文し
た西日本にある会社の住所、しかし本来お届けすべき先は
はイベント会場である東北の住所・・・間違えて登録して
しまったのだ。翌日の朝9時にはイベントが始まるという。
お届け先は遠く百里先! **運送会社ではもう間に
合わない、「どうする、スペースふう!!!」**
時すでに冬の夕刻、しかもその日はイベント対応でスタッフ
たちはヘトヘト。「私たちが運ぶしかないじゃん、こんな時
は任せとき」の理事軍団の一声! 早速ワゴン車の手配、
地図をスタッフに用意してもらい、注文のリユース食器を積
み込む、そしてチャッカリ夜食も積み込んでいざ東北へ
出発!! 4人乗り込み夜通しの運転もなんのその。翌朝無事
リユース食器お届け完了。任務を終えた理事たちは、心配し
ているスタッフたちとは裏腹に、**帰りの車中は遠足気分
であったとか、、、**なんとまあ、頼もしい事でございます。



コンテナ大事、 何とかせよ

少しずつリユース食器が広まり、全国的なレンタルに
なった頃、いつものようにレンタル食器をコンテナに
詰め発送準備完了、集荷の連絡を運送会社に連絡した。
ところが「スペースふうの荷物は今後、集荷も配達もし
ないことになりました」とのお返事。原因は返却コンテ
ナから汁漏れがあり、他の荷物に影響を及ぼした、との
ことであった。すぐさま謝罪し対応策を考えるのでと訴
えたが、問答無用、取引停止!! **輸送という生命線を
断ち切られてしまった、お手上げである、「どうする、
スペースふう!!!」**
所有している何百のコンテナを変えるわけにはいかない。
そこで直ちに袋の取引をしている製造会社に相談。厚さ・
形状・費用等、頭を悩ませながらやっと誕生したのが、
『**汗漏れ防止の底敷き袋**』である。これで難問は解決
した。そのことを機に別の運送会社に我が活動の趣旨を
理解していただき、協力体制を築きながら、現在もなお
皆さまへ安心してリユース食器をお届けしているので
ございます。



もはやこれまで、 いざ決断の時

2020年2月、待ちに待った新品の高圧洗浄機がやってきた。ピカ
ピカの洗浄機を前に、スタッフみんなの顔が嬉しそう。さあこれから
だと意気込んでいた矢先、新型コロナウイルス感染拡大で世の中が
大騒ぎとなった。全国的にイベントが中止・自粛。キャンセルの電話
が相次いでかかってくる、注文はほぼゼロ、全くのお手上げ状態がず
つと続く。『**廃業**』の二文字が頭をかすめ、**どんどん追い詰められ
ていった。「どうする、スペースふう!!!」**
この窮状を全国の仲間へ訴えよう! クラウドファンディングを執行。
「リユース食器の灯を消すな」を合言葉に、隣り近所のおばちゃん
おじちゃんから始まり、北は北海道、南は九州と全国各地から続々と
援軍(寄附)が寄せられ存続の切符を手にすることができた。危機を
救ってくれたのは援軍、まぎれもなく全国の仲間たち。**感謝の気持
ちを胸にこれからも日々の活動に邁進して参ります。**

皆さまとともに想いを事業という形に変え、循環型社会の実現を目指します

皆さまからいただいた会費、ご寄付はリユース食器の普及に伴う事業、社会の課題解決に向けた事業の力とさせて
いただきます。未来につなげる社会を目指して活動するスペースふうにご支援をお願いします。

スペースふうを支えてくださった皆様



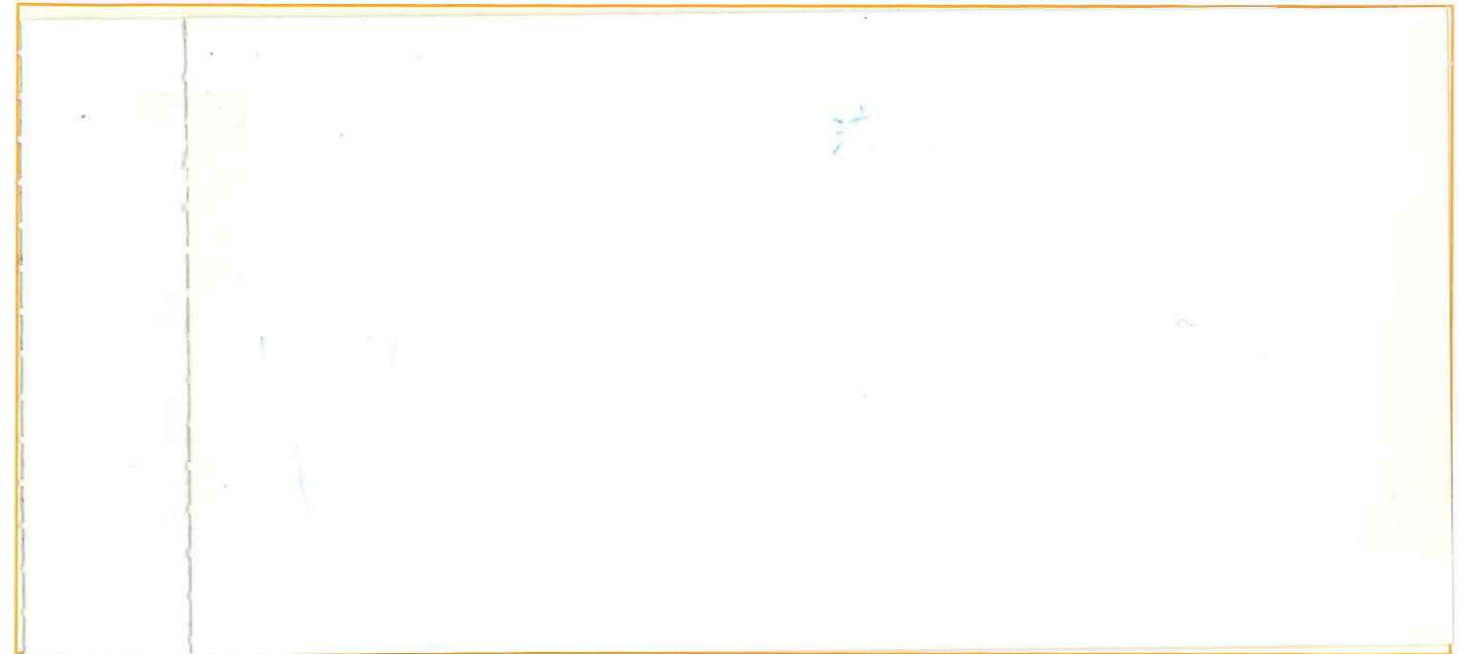
山梨学院大学・青洲高校非常勤講師
田中 実 様

数年前から、SDGsを広めるためのワーク
ショップを学校や自治体等で開催しています。
設立当初からSDGsの17の目標に直接アプ
ローチしているスペースふうを、同じ富士川町
の住民として応援することはもちろん、ゴール
17「パートナーシップで目標を達成しよう」
を体現している皆さんと、これからも一緒に活動できればと考えて
います。



NPO 法人游風
事務局長 竹林 昌代 様

私が今の活動を始めたのは、スペースふうの新聞
記事がきっかけでした。活動の最初は、リユ
ース食器を鎌倉の方々に紹介するだけ。スペース
ふうと繋がり、メンバーの皆様にお会いするよ
うになって感じるのは、唯々「リユース食器を全国に広げたい。
使い捨てプラを減らしたい」という強い想いを 芯に活動している
ということ。微力ながら私達も活動を続けていこうという支えとなっ
ています。



上記期間中複数回支援して下さっている場合は、対象項目内1回の表記にしております。
上記の方以外にも、団体様・ご本人様の希望により匿名の方もいらっしゃいます。皆さまの温かいお心遣いに感謝致します。

循環型社会を実現するために、皆様のご支援・ご協力をお願いします



正会員 〈年会費〉団体・法人 **10,000円** / 1□
個人 **5,000円** / 1□

当法人の活動に賛同し継続して支援して下さる方
総会での議決権はあります

賛助会員 〈年会費〉団体・法人 **10,000円** / 1□
個人 **3,000円** / 1□

当法人の活動に賛同し継続して支援して下さる方
総会での議決権はありません

寄付募集 当法人を財政面から随時支援して下さる方 **3,000円** / 1□~

※正会員は税の優遇措置がありません。賛助会員・寄付は税の優遇措置があります。確定申告の時期に証明書を送付いたします。

お振込先

ゆうちょ銀行振込の場合：郵便局払込取扱票にて 00250-5-95852 NPO 法人スペースふう
銀行振込の場合：山梨中央銀行 青柳支店 普通口座 318874 特定非営利活動法人 スペースふう 理事長 永井寛子

つながる募金



活動計算書

令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで

(単位:円)

貸借対照表

令和5年3月31日現在

(単位:円)

	特定非営利活 動に係る事業	休眠預金等 活用事業	合計
I 経常収益			
1 受取会費	140,000		140,000
2 受取寄附金	2,220,605		2,220,605
3 受取助成金等		5,390,751	5,390,751
4 事業収益	6,795,952		6,795,952
5 その他収益	170,188	131,100	301,288
経常収益計	9,326,745	5,521,851	14,848,596
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費	3,983,119	3,100,834	7,083,953
(2)その他経費	5,895,657	2,421,017	8,316,674
事業費計	9,878,776	5,521,851	15,400,627
2 管理費			
(1)人件費	800,818		800,818
(2)その他経費	488,206		488,206
管理費計	1,289,024		1,289,024
経常費用計	11,167,800	5,521,851	16,689,651
当期経常増減額	△ 1,841,055	0	△ 1,841,055
III 経常外収益	65,238	0	65,238
IV 経常外費用	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 1,775,817	0	△ 1,775,817
法人税、住民税及び事業税	71,204		71,204
当期正味財産増減額	△ 1,847,021	0	△ 1,847,021
前期繰越正味財産額	178,494	0	178,494
次期繰越正味財産額	△ 1,668,527	0	△ 1,668,527

	特定非営利活 動に係る事業	休眠預金等 活用事業	内部取引 消去等	合計
I 資産の部				
1 流動資産				
現金預金	1,653,032			1,653,032
売掛金	262,392			262,392
未収入金	481,549		△ 481,549	0
貯蔵品	559,267			559,267
流動資産合計	2,956,240		△ 481,549	2,474,691
2 固定資産				
有形固定資産	8,292,183			8,292,183
投資その他の資産	100,000	2,351,226		2,451,226
固定資産合計	8,392,183	2,351,226		10,743,409
資産合計	11,348,423	2,351,226	△ 481,549	13,218,100
II 負債の部				
1 流動負債				
短期借入金	1,200,000			1,200,000
未払金	1,004,413	481,549	△ 481,549	1,004,413
未払法人税等	71,000			71,000
前受助成金		1,869,677		1,869,677
預り金	4,537			4,537
流動負債合計	2,279,950	2,351,226	△ 481,549	4,149,627
2 固定負債				
長期借入金	5,036,000			5,036,000
役員借入金	5,701,000			5,701,000
固定負債合計	10,737,000			10,737,000
負債合計	13,016,950	2,351,226	△ 481,549	14,886,627
III 正味財産の部				
前期繰越正味財産	178,494			178,494
当期正味財産増減額	△ 1,847,021			△ 1,847,021
正味財産合計	△ 1,668,527	0	0	△ 1,668,527
負債及び正味財産合計	11,348,423	2,351,226	△ 481,549	13,218,100

財務諸表は、山本薫公認会計士事務所の助言のもと
NPO 法人会計基準に準拠し作成しております。

コロナ禍の影響を受けながらも、2022年の夏頃を境に少しずつイベントが再開され、リユース食器レンタルの需要が回復基調となりました。これにより、当法人の事業収益は前年度比で465万円増加しました。しかしながら、コロナ禍前の2019年度との比較では、3割程度にとどまっています(2019年度事業収益2,341万円)。
また、受取寄附金も前年度と比較して63万円増加しました。これは、

リユース食器レンタル事業に加え、前年度から新たに開始した休眠預金等活用事業「リユースお弁当箱がなくなぐ地域デザイン事業」に取り組んだことで、広範なご支援をいただいたことによるものです。支出の削減にも引き続き努めておりますが、支出が収入を上回り、当期正味財産増減額は△184万円、次期繰越正味財産額は△166万円となりました。

スペースふうは、これからもさまざまなことに挑戦します!!
ごみゼロに挑戦し続けるスペースふうへのご支援をお願いします。

発行日: 2023年7月
発行: 認定NPO法人スペースふう
編集長: 長池伸子 デザイン: 上鶴恵子
印刷: 株式会社フォーワークス

